

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で連携をとりながら理念に沿ったケアの実践にむけて日々努力している。職員の中で理念の理解度に差がある内容もあると思われる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ない。時々挨拶を交わす程度。地域との交流をどう計っていくかが今後の課題		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談など受けた時に助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族からの意見や要望などを伺い日々のケアに反映されるよう改善・向上に努力している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接行政との連絡は管理者が行っている。連携・連絡の内容は全職員にも報告されており把握できるようにしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険予測がなされる場合にのみ止むを得ず玄関の施錠対応や階段の使用をできなくなる拘束対応はとっている。但し、拘束対象の家族には事前に説明し同意を得ている		

京都府 グループホーム長岡京 (2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員が関連法について学んでおり研修報告書を全職員に開示し防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が制度について学び研修報告書にて全職員に開示している。個々の必要性を関係者と話あうことは現在の入居者で必要性がなく話し合っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族には十分な説明を行い疑問に答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時や運営推進会議に参加された時などに意見・要望・疑問などを伺っており反映できるように努力はしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている会議などで意見を聞く場がある。また個別でも意見を聞いてくれている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	育児や体調不良など勤務内容の相談にのり対応してくれている。発生した残業代もきちんと支払いされている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や経験年数など把握したうえで研修に参加する機会を与えていているが参加の頻度は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は協議会などにて同業者との交流の場に参加している。職員は研修にて同業者と交流することがあるが相互訪問はない		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人に困っていること・要望などを伺っている。意思疎通困難な方は家族よりの聞き取りが重視となっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や入居時に家族の困りごとや要望を聞き日々のケアに繋げている。面会時にも小まめに話をする事で信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人の思い・要望を把握した上で必要なサービスを考えケアプランを作成し日々のケアに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事や作業を行ったり、食事を摂り共同生活の中での援助を行っているが全介助の方と支えあう関係構築は努力はしているが構築されているが明確に出来難い		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思い・ケアの方向など共有しながら本人と一緒に支援していく関係作りに努めている。医療面でのケアも協力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来得る限りの努力はしているが難しいこともある(家族の面会が少ない方など)外出も難しいことが多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	不穏状況に応じながら入居者同士の関わり が上手くいくように支援しているが入居者に より支援が困難な時も多い		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当する機会があまりないが必要時は支援 に努めるようにする		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日頃の発言や行動から思い・要望を汲み取 りケアに繋げる様にしている。定期的ケア カンファレンスも行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	本人とのコミュニケーションの中から情報 を得たり家族からの話を聞くなど本人の生活 歴や背景・思考などから把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々のケアや関わりから現状把握に努めて いる。また職員間で把握できた情報を共有 出来るように引継ぎを行っているが引き継 ぎが不十分で伝達しきれていないこともあ る		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	主に本人の思いを日頃の発言や行動から 汲み取り現状に応じたサービスを作成して いる。家族の意向も対応可能な限り組み入 れ計画しているが計画のみでケアの実践に 繋がっていない時もあり		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	重要な内容は記録を徹底することに努め引 継ぎや会議にて他の職員にも報告しサー ビスに繋げているが職員間で情報が統一 共有できていなかったこともある		

京都府 グループホーム長岡京 (2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化にすぐ気づくように努めその時必要な対応が出来るよう連携をとっている。急な変化もスタッフ同士で相談してすぐ必要なケアが出来るように努め必要であれば家族・主治医にも相談している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族・主治医・看護職・ボランティアの折り紙教室でホーム内で関わりのある職種との協力で安全で楽しめることができるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医を継続していただいたり、家族が依頼したい医院を選んで頂き、特に指定がなければ家族の要望に合わせた主治医を助言することもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実践できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の職員や家族から経過情報を聞き退院にむけての時期や状態を相談しあっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人とは出来ていないが必要が生じたときには家族・主治医・職員・管理者とで話し合いを行い終末期に向けた協力体制や方向性の統一・連携確認の話し合いの場を設けている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないがマニュアルを作成しすぐ見れる場所に設置し全職員が対応できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	数ヶ月に一度の避難訓練にて職員の動き連携を見直し改善に努めているが反省点が改善されていないことが多い。地域との協力体制はとれていない		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より心掛けているが不適切な言葉掛けや対応があった時には注意しあうようになっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行動の前に行いその時の意志を確認している。言葉で表現しにくい方にはヒントを使って思いを知る努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りその人のペースに合わせたケアを行っているが訴えが強かったり不穏時には職員のペースになってしまい本人の要望に答えられていないときもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者によっては一緒に服を選んだりしているが身だしなみに気をつけるようになっているが臥床後の整髪や服の袖口から下着が見えていたり徹底できていないこともある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に合わせて準備・片づけを職員と一緒に協力しながら行っている。楽しく食事が出来るように座席や会話にも配慮している。不穏の方にはその都度安心の声掛けを行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事の形態で提供している。食事・入浴・オヤツ以外の水分の提供ができていない		

京都府 グループホーム長岡京 (2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・昼食後・夕食後に実施している。訪問歯科の衛生士による口腔ケアや不穩に繋がるため昼食後は行わないなど個別対応している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がない方にはパット交換のみの方もおりトイレでの自立に向けた支援が出来ていないこともあり個人に合わせた排泄リズムでの声掛けや誘導を行っていく必要がある		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課である体操や薬の調整など行っている。個別で牛乳を摂取していただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフの都合で時間が決まってしまうことが多いが、拒否や不穩時には無理せず対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間の支援ができていない人と出来ていない人もいる。日中共有スペースで過ごす方の休息時間があっても良いと考えられる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	引継ぎやカンファレンスにて報告しあっているが理解度については職員にばらつきがある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーション時にその人それぞれの嗜好品に合わせた会話を取り入れるよう心掛けている。家事への参加もその人の思いや能力に合わせ支援している		

京都府 グループホーム長岡京 (2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿った外出は殆ど行えていないことが多いが季節によっては散歩や行事でのドライブを楽しんでもらえるよう努力している。地域の方々との協力は無いが家族との買い物・外出は楽しんでいただいている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望に応じて現金を所持していただいているが、使用する支援はしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不穏時は電話を希望される方でも安心の声掛けで架電せずに済む時もあり支援しているとは言い難い。家族からかかってきた電話は楽しんでいただいている。手紙を書く機会はあまりない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや飾りなどで季節感を取り入れている不穏に繋がる物は置かないようにして心地良く過ごして頂けるよう努力している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話や不穏状況によりリビングで過ごす席などに配慮している。入居者の気分により居室で一人で過ごすことを促す対応をしている。詰め所前やロビーなどくつろげる場所も用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら家具の位置など変えることもある。不穏につながるため使い慣れたものなど居室に置けない方もいる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事や作業など安全に配慮しながら本人が行いやすいセッティングをしている。能力に合わせ自立支援に努めるようにしているが時間が無い時など職員が行ってしまっている時もある		